

(別記)

## 2020 年度桑折町地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

桑折町は、福島県中通り北部に位置しており、京浜市場までの所要時間が約6時間と近く、鮮度の高い果樹・野菜の出荷が可能のため、モモ、リンゴ、キュウリ、トマト、イチゴ等の生産を行い、特にモモは、県内有数の産地となっている。一方、水田においては、全耕地面積の約33%を占めているが、一戸当たりの所有面積は40～50a程度と少なく、ほ場区画も小さいことから、自家消費米としての作付生産が主体である。そのため農家の高齢化により条件不利地水田では、調整水田・自己保全管理等が多くなり土地利用率が低い状況にある。

また、麦・大豆については、排水条件、土壌酸度不良等の圃場作付が多く、収穫量、品質の低下がみられており対策を講じる必要がある。

今後は需要のある作物への作付転換を推進していくことが必要である。

### 2 作物ごとの取組方針等

#### (1) 主食用米

桑折町全地区において、主要品種であるコシヒカリを中心に、環境に配慮した安全・安心な米づくりの推進を行う。生産数量(面積)の目安及びJA等の集荷団体が策定する販売計画をもとに、適切な作付面積を確保していく。

#### (2) 非主食用米

##### ア 飼料用米

主食用米の需要が減少している中で飼料用米の本作化のために、国からの産地交付金と町からの上乗せ配分により、少しずつ多収品種への移行が進んでいる。団地化等の取組を行い生産性の向上や、コスト縮減を図り、2020年度には75haまでの作付拡大を図る。

##### イ 米粉用米

該当なし

##### ウ 新市場開拓用米

該当なし

##### エ WCS用稲

産地交付金を活用し、直播栽培や団地化等の取組を行い生産性の向上やコスト低減を図る。また、近隣市町の畜産農家に対して継続的な出荷を行うことができるよう推進する。昨年は交付金の活用によりWCSへの転換が進み、作付面積が拡大したため、継続的に推進を図っていく。

#### オ 加工用米

J A等の集荷団体と連携しながら複数年契約による販売先の確保に努め、直播栽培、疎植栽培、立毛乾燥等のコスト低減に取り組ながら生産性向上を行い、安定した生産量の確保および低コスト化に努める。

#### カ 備蓄米

水田における転作作物として有効であることから、優先枠の確保に努め、安定供給に取り組む。

#### (3) 麦、大豆、飼料作物

麦、大豆については、ほ場の改良を行いながら、集積化及び水稲を含めたローテーションに取り組、地産地消に努め需要に即した高品質の麦・大豆の生産に取り組作付面積の拡大を進める。(麦：2019年度(1.03ha)→2021年度(6ha)、大豆：2019年度(6.45ha)→2021年度(12ha))

土壌の成分調査を行い圃場ごとに適した施肥によるコストの削減を進める。  
飼料作物については、該当なし。

#### (4) そば、なたね

そばについては、地域の実需者との出荷契約に基づき、高品質のそば生産に取り組んでいる。主に集落営農組織により適切な栽培管理を進め、品質及び収量の向上を図るとともに、施肥等のコスト削減への取組を進める。

産地交付金を活用し面積の拡大や団地化の他、共同収穫作業や排水対策の生産性向上等の取組を行い、安定的な生産を可能とし作付面積の拡大を図る。

なたねについては、該当なし。

#### (5) 高収益作物（園芸作物等）

桑折町内における重点推進園芸作物として、「モモ」、「キュウリ」、「アスパラガス」、「イチゴ」、「シュンギク」を振興作物の中核と位置付け、今後も中核をなす作物として産地交付金を活用し安定的な生産販売を推進する。

また、桑折町はモモが特産であるため、産地交付金を活用することによって定期的なモモの新植を推進する。

#### (6) 畑地化の推進

該当なし。

### 3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	310.82	297	300
飼料用米	60.18	75	75
米粉用米	0	0	0
新市場開拓用米	0	0	0

WCS 用稲	15.71	20	20
加工用米	2.00	3	3
備蓄米	12.00	16	16
麦	1.03	5	5
大豆	6.45	10	10
飼料作物	0	0	0
そば	3.91	10	10
なたね	0	0	0
その他地域振興作物	3.52	4.4	4.4
野菜	3.52	4.3	4.3
・キュウリ	0.77	1.1	1.1
・アスパラガス	1.18	1.5	1.5
・イチゴ	0.11	0.2	0.2
・シュンギク			
果樹（モモ）	0.00	0.1	0.1

#### 4 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	
				前年度（実績）	目標値
1	飼料用米 （多収品種） （基幹作物）	飼料用米多収栽培推進助成	多収栽培技術の導入面積 10a 当りの収量 （60kg 当たりの生産費）	（2019 年度）22.40ha （2019 年度）504kg/10a 14,066 円/60Kg	（2020 年度）50.00ha （2020 年度）536kg/10a 11,253 円/60Kg
2	そば （基幹作物）	そば作付助成	取組面積 10a 当たり単収	（2019 年度）2.97ha （2019 年度）42.4kg/10a	（2020 年度）10.00ha （2020 年度）68.2kg/10a
3	飼料用米 （一般品種） （基幹作物）	飼料用米推進助成	取組面積 飼料用米の生産費	（2019 年度）30.20ha（推計） （2019 年度）115,620 円/10a	（2020 年度）25.00ha （2020 年度）105,390 円/10a
4	振興作物 （野菜） （基幹作物）	地域振興作物助成	地域振興作物助成面積	（2019 年度）2.91ha	（2020 年度）4.3ha
4	振興作物 （果樹） （基幹作物）	地域振興作物助成	地域振興作物助成面積	（2019 年度）0.0ha	（2020 年度）0.1ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

#### 5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり